

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立瓜破東小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査や小学校学力経年調査の結果分析において、学力向上の課題として「基礎・基本的事項の理解と定着」「学習意欲の向上」「学習・生活習慣づくり」が挙げられる。また、学力と相関関係にある「自尊感情の育成」も重要である。
- 安定した学校生活を過ごすために、その基盤となる健康的な生活(体力づくり、食に関する指導、基本的な生活習慣の確立)を保護者(家庭)と連携した取り組みを推進する。
- 集団生活を通して「規範意識」「社会性」「良好な人間関係(いじめの克服)」を育む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より10%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率(平均点)7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より10ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、30%以上にする。
- 小学校経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より4ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、65%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、87.5%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年前年度より 0.05 ポイント向上させる。
- 小学校経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 小学校経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 30%以上にする。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- デジタル教材を活用した学習を週 1 回実施する。
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。
- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、65%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○全市共通項目「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、経年調査（以後、経年）91.7%と目標を達成できた。いじめアンケートを全学年に年3回（各学期）学習者用端末で実施し早期発見に努めた。いじめにあっていると答えた児童には、担任が聞き取りを行い児童及び保護者へ丁寧に対応している。不登校（傾向）児童に関しては、オンライン学習ができるように担任が働きかけている。コロナ禍後に、保護者が学校に行くことへの必要性を感じていなく学校だけの努力だけでは対応が難しい。

○「学校のきまりを守っている」は、経年80.5%、学校生活アンケート（以後、生活）86%となり目標の85%には調査によって結果が異なった。本校は、全体的に落ち着いており、学習規律も生活指導上の問題も少ないといえる。児童の安全を確保し、安心して学校生活を過ごせるよう、学校のきまりを年1回程度見直しの検討を行うとともに児童の生徒指導だけではなく、保護者への啓発も継続していく。

○「自分にはよいところがある」は、経年67.5%、生活59%で目標の85%に届かなかった。今年度より【特別活動】の研究に取り組んでおり、学校生活の様々な場面で、児童が主体となるような場の設定をしており、児童が生き生きと活動している姿が多く見受けられるようになってきている。これらの場面をさらに充実させ、その中で児童の自尊感情をさらに高められるようにしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」については、経年69.0%であり目標を達成できた。経年調査の国語科では、平均正答率対大阪市比は、半数の学年が前年度より0.05ポイント向上させることができた。理科が好きかについては、81.6%であり、外国語が好きかについては、経年63.1%と外国語は目標の70%以上の結果には至らなかった。運動やスポーツをすることに関しては、学年のばらつきがあるものの経年74.1%、生活70%で65%以上の結果となった。

○本校は、昨年度より1年生から専科制を採り入れている。各教員が、児童の学力・運動能力の実態を把握し、個別最適化な学習を心掛け、日々授業力向上に努めている。そのため、数値目標の達成・未達成はあるものの児童の学力向上・体力向上に対する意欲は確実に上がってきている。

○「がんばる先生支援事業」の研究支援を受け2年目、全市に本校の【特別活動（学級活動）】の取り組みについて報告することができた。今後も全教職員で1チームとなり、児童主体の学校づくりに取り組んでいく。

【学びを支える教育環境の充実】

○デジタル教材を活用した学習を週1回実施するは、どの学年でもデジタル教科書等を有効活用している。年度途中でchromebookに変更になった効果は大きいと感じる。

○「心の天気」の入力をルーティン化するように取り組んだり、各教科・領域において学習者用端末を積極的に活用したりすることができ活用率が向上した。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は、92%で50%に達することができた。今後も学校現場における働き方改革を推進していく。

○「読書は好きですか」に肯定的に答える児童の割合は、経年57.0%、生活74%であった。教員の取り組みだけでなく、図書委員会の児童や図書ボランティアさんの活動等を効果的に活用し、児童が読書の楽しみを実感できるよう取り組みを継続していく。

○校内研修については、全員授業を実施し、すべてに講師を招き授業力向上に努めた。また、スクールアドバイザー（SA）の活用で若手教員の研修を深めることができた。

○今後も働き方改革を意識し、仕事の効率化を図りながら教材研究の時間を確保するとともに指導力を高める研修を工夫していく。

<中期目標>に関しては、達成できた項目、できなかった項目がある。後者に対しては、結果を分析し、改善策を考え、次の運営に関する計画に反映させていきたい。

大阪市立瓜破東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、80%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、87.5%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>決まりを守って安全に気持ちよく学習したり生活したりできるように「生活・学習の約束」を全教職員で指導する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 「生活・学習の約束」のふり返りを、学校生活アンケートの中で学期に1回行い、結果を指導に役立てる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>異学年とのふれあい活動の工夫と充実を図っていくために、高学年をリーダーにした縦割り活動に積極的に取り組んでいく。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 集会活動や学校行事などで、縦割り活動やペア学年活動を学期に1回以上行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①

- ・後期も、髪を染めている児童やパーマをあてている児童がいる。ピアスをつけて登校する児童は見かけなくなった。
- ・遅刻をくり返す児童がいる。また、忘れ物が多い、宿題をしないなど、学習規律が身につけていない児童がおり、固定化している。
- ・「生活・学習のきまり」に関する児童の実態を把握し、指導のあり方等について教職員で話し合い、共通理解したうえで、全体指導、学級指導、道徳科での指導、個別指導、保護者への連絡等を行った。

②

- ・児童会活動を活発に行うことができた。児童集会やうりひがまつり、たてわり清掃、たてわり読書、ペア学年活動、ペア学年以外の学年との交流（5・6年ドッジボール大会、3・6年ハロウィンパーティ、1・2年学校探検等）など、異学年と交流する活動が工夫して行われ、ペアやグループにおける「上級生」としての自覚も育ってきている。
- ・遅刻する児童が、火曜日朝の児童集会に参加できていない。

次年度に向けての改善点

①

- ・児童がきまりを守って安全に気持ちよく学習したり生活したりできるように、今後も職員打ち合わせ会などで教職員で共通理解を図り、指導・啓発等を進めていく。
- ・ミマモルメや電話での欠席・遅刻連絡は保護者の役割である。「学校だより」等で啓発を行っているが、今後も、無断遅刻、無断欠席がなくなるよう、保護者への啓発を行う。

②

- ・次年度も児童集会をたてわりグループで行う機会を多くもつとともに、全校遠足、たてわり読書、ペア学年集会等、高学年をリーダーとしたたてわり活動を実施していく。

大阪市立瓜破東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年前年度より 0.05 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>○小学校経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 30%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>授業研究会や指導力向上のための研修会を年間計画に基づいて実施し、研究授業後の協議会や研修会での議論を活発に行う。また、伝達講習会を行い、各教職員が研修した内容を、他の教職員に広める機会を設ける。</p> <hr/> <p>指標 年間計画に基づいて、授業研究を実施し、協議会の形式を工夫しながら、指導力向上のための研修に取り組み、すべての教員が年1回以上、自主的に授業公開を行う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>体育の授業で体力づくりの運動に積極的に取り組むだけでなく、体育学習カードを活用したり、運動週間を実施したりして、児童の日々の運動に対する意識を高めていく。</p> <p>指標 学校生活アンケート「運動場で友だちと遊んだり、体を動かしたりすることができましたか」の項目について、「できた」・「だいたいできた」と答える児童の割合を 70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 年間計画に基づいて授業研究会や研修会を実施することができた。特に、若手教員は指導力向上のために「大阪市学力向上支援事業」においても研鑽を積むことができた。

昨年度から「特別活動」を研究することとなり毎月「うりひが研究の日」を設け、研究グループによるディスカッションを重ね、自主自律した「うりひがっこ」の育成に努めてきたことで、児童の自尊感情の高まりが顕著である。また、昨年に続き、「大阪がんばる先生支援事業」を活用して、特別活動研究部の全国大会や他校の研究発表会等様々な校外研修に参加し視野を広げることで、校内での新たな取り組み（①指導材等の工夫による話し合い活動活性化を図る学級活動、②児童の主体性を育むノートを活用した児童会・クラブ活動、③学校行事としてのたてわり清掃等）を推進することができた。特に、学級活動の研究に重点を置き、全学級で学級活動の研究授業に取り組むことで、児童の非認知能力が高まった。研究に加え、校外での各教科・領域の研修後には伝達研修を工夫して行うことで、全教職員への共有が図られ指導力向上につなげることができた。

また、今年度も専科による指導制度（教科担任制）やチーム学年主任制度（チーム担任制）の取り組みにより、チームティーチングを取り入れた授業や互いの授業参観をする機会が増え、指導法について議論したり、多様な視点から指導したりすることができた。

② 昨年度から、全学年において体育専科教員を中心に複数名で連携して体育科授業を実施したため、系統立てた指導を行うことができた。専科教員の専門的な知識を生かし、運動に必要な準備体操や体力づくりの運動を取り入れたり、学年に合わせた体育学習カードを必要に応じて活用したりすることで、児童の意欲を高めることができた。また、児童一人ひとりの能力や意欲に応じてスモールステップで指導することで、児童は自分の目標を意識しながら主体的に活動することができた。

休憩時間については、「うりチャレ」と題した様々な運動に親しめる場や用具を運動場・中庭に配したり、「みんな遊び」の時間を設けたりすることで、前期は積極的に体を動かして遊ぶ児童が増加した。

後期は、楽しみながら運動に取り組むことができる運動月間（なわとび・かけ足）を工夫して実施したことで運動意欲の向上を図ることができたが、その期間以外は外遊びをする児童が少ない。

次年度に向けての改善点

- ① ・各教科・領域の研修会に積極的に参加し、伝達研修会を実施する。
・研究授業後は研究協議会もしくは意見交流会を設け、授業者は積極的に多様な意見やアドバイスを受けることで指導力向上に努め、児童の学力向上につなげる。
・メンターメンティー対象の授業公開や指導法の伝達・実技研修を計画的に行う。
- ② ・夏季・冬季期間も、すすんで運動に取り組みたくなるような体育科の授業内容や環境の工夫、及び啓発を行う。
（例：たてわり班・ペア学年や低・中・高チームでの遊び時間の設定）
・1学期にも、体力テストに向けての運動月間の取り組みを検討する。
・校内の運動に関する様々な掲示物や「うりチャレ」の活用を図る。
・体育倉庫や体育用具の整理と安全管理に引き続き努める。

大阪市立瓜破東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を75%以上にする。</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を、65%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 ICT機器を活用し、児童に分かりやすい授業を構築するとともに児童が積極的にタブレットを活用できるようにする。</p> <p>指標 デジタル教材を活用した学習を平均で週3回実施することにより、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が50%以上になるようにする。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】 授業研究会や指導力向上のための研修会を計画的に実施し、討議会や研修会での議論を活発に行う。また、伝達講習を通して必要な知識・技能を共有する。</p> <p>指標 メンターを中心に若手研修を年間5回以上実施する。スクールアドバイザーを活用し指導力を高める。特別支援教育研修、人権に関する研修を校内で実施するとともに外部研修の伝達講習を必要に応じて実施する。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】 児童が興味関心をもつことができるような読書環境を整え、読書活動を活性化させていく。</p> <p>指標 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、65%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を75%以上にする。</p> <p>指標 「ゆとりの日」（ノー残業デー）を週に1回設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① デジタル教科書や資料等を大型テレビに投影し、児童にわかりやすい授業づくりに努めた。タブレット端末は、こころの天気の入力・調べ学習・発表・復習など様々な場面で有効活用されており、各担任が声かけをしたり利用機会を確保したりすることで前年度より利用頻度は上がっている。
今後も ICT 機器の効果的な活用場面を工夫・研究し、積極的な活用を進める。
また、ICT 担当を中心に休憩時間の使用のルールなどを含め、学年間・教員間の意識の差がないよう共通理解を図る。
- ② 計画通りに実施された。
若手教員研修を始め、月に一度以上の授業研究会を計画的に実施し、スクールアドバイザーや専門としている他校の先生に指導講評をいただいた。また、個々が研修で学んだことを Skip 掲示板等を通して伝達した。
- ③ 図書館司書や地域図書ボランティアの方々と共に朝や給食時の読み聞かせ、「うりひが本の森」の整備などが行われた。また、図書委員会による読書週間・読書の木など読書活動を活性化させるための取り組みも進められた。
オリエンテーリングや図書クイズ、蔵書選定に委員会児童の意見を反映させるなど読書推進のための活動が行われたが、図書室利用頻度の向上の効果があまり表れていないため、更なる工夫が必要である。
- ④ 「ゆとりの日」や「学校閉庁日」が年間計画に組み入れられており、計画的に実施された。

次年度に向けての改善点

- ① 活用状況を見ると、今年度学習者用端末の活用率は月平均 6～7 割にとどまった。遅刻者の「心の天気」入力が確実にできていないことや学年間・教員間の意識の差が理由として考えられるので、校内で共通理解を図る。持ち帰るようになったタブレット端末の有効な活用方法についても検討し、さらなる活用頻度の向上を図る。
また、ICT 担当を中心に年度当初に休憩時間の使用ルールを明確にし、学校のルールとして、児童・教員間で共通理解を図る必要がある。
- ③ 読書を肯定的にとらえる児童は 74%であった。
昼休憩時間の図書室の利用者が依然として少ないため、児童が読書に興味関心をもてるような読書環境を更に整え、雨天時は図書室利用を呼び掛けるなど教職員が積極的に読書推進の声掛けをする。
- ④ 「定時に退勤できているが、仕事をもち帰っている」という教職員も多いため、設定日に教職員の意見が反映されるとよい。